

## 薄利重ねるデイトレード

# 「宵越しリスク」「資金の固定」なし

デイトレード（日計り商い）は、新規建玉をその日のうちに手じまいし、1日で損益を確定する短期取引の手法です。東京工業品取引所（東工取）によると、同取引所の7月の全売買高に占めるデイトレードの割合は15.0%。この数値には取引所会員の自己取引は含まれていませんから、少なくない一般投資家がデイトレードを手掛けている実態が浮かび上がってきます。

### 分散投資と同等効果

デイトレードの最大のメリットは取引リスクを低く抑えられる点にあります。

日本市場が閉じた後、寝ている間に海外相場が急変し、明けて翌日の取引で一喜一憂するというのはありがちな話です。もちろん良い方向に転がれば「結果オーライ」でしょうが、それはあくまでも偶然の産物。逆の場合に「憂い」となる原因を断つためには、建玉が仕切れない状況を作らないこと、すなわちオーバーナイト・リスク（宵越しのリスク）を取らないとの考え方です。

投資に用いる資金を固定させない点も大きなメリットです。半月、1カ月と長期にわたって建玉を維持すれば、その

東工取ガソリン先限つなぎ1分足チャート 出所：岡藤商事「Expert Web Trader」



間、取引証拠金に振り替えられた投資資金には手をつけられない状態となります。投資資金が無尽蔵であれば話は別ですが、限られた資金では、別の商品に訪れた投資チャンスをみすみす見逃さざるを得ない状況にも見舞われかねません。

デイトレードでは投資資金が毎日最大値に復帰するため、その日の相場に応じて機動的な売買が可能となるのです。

また、限られた商品への資金の固定は、投資原資の多くを、その商品に固有の投資リスクにさらすことを意味します。デイトレードで多数の商品を自由に取引できる環境を整えておけば、それは結果的に特定の商品の取引に伴って発生する過大な投資リスクの引き受けを軽減

する「分散投資」と同等の効果を生みます。コツコツ積み上げてきた利益を1回の大きな負けで失う可能性を排除するものですが、その際には前回紹介した損失限定取引を活用する必要があります。

### 細密なチャート不可欠

実際にデイトレードをする上では、一定以上の値動きと出来高がある商品を選ぶなければなりません。ダイナミックな値動きは利益の機会を増大させ、市場の活況はいつでも注文が約定できる環境を約束するからです。

東工取では、ガソリン（7月のデイトレード率=24.5%）、白金ミニ（同18.7%）、白金標準（同16.0%）、金標準

## 新・商品先物入門

②

日本商品先物振興協会  
小島 栄一

（14.5%）などが人気を博しています。

低廉な委託手数料と取引タイミングを計るための細密なチャートも不可欠です。このため、現実的には、デイトレードはネット（電子）取引ですることになります。先物会社の多くはネット取引の手数を1枚あたり1000円以下（往復）、デイトレードはさらにその半額に設定し、チャートの更新情報はネットで配信しているからです。

チャートは描画の単位時間を極端に縮めた「5分チャート」や「1分チャート」、あるいは約定ごとの「ティックチャート」を多用します。これは用途に応じて縮尺の異なる地図を使い分けるようなものです。

なお実践では1回の取引にかける時間をデー（1日）ではなく数十分、数分としている投資家も多くいます。リスクを極小化する一方で薄利を重ねることが目標ですが、この究極の形が数ティック（1ティックは最小の値動き）で利益を確定させる「スキャルピング（薄皮をはぐ）」という考え方です。